

令和3年度機構評議会指摘事項への対応状況

○研究課題の設定

(1) 中高層建築などを木と鉄とコンクリートの混構造で建築するための建築分野の研究者との連携や、エンドユーザーの所まで木材を丁寧に届け、木材をもっと理解してもらうための取組が必要ではないか。

(対応状況)

「森林産業コミュニティネットワーク」の活動等を通して、建築分野を含む異分野との連携を強化し、大径材の活用等、国産材の利用拡大に向けた研究開発を進めている。また、今年10月の研究所公開講演会では、ネットゼロをテーマに、林業や育種の研究成果とともに、建築構造、建築空間における木材利用及び木質バイオマスエネルギー利用に関する研究成果を紹介するなど、木材の価値や良さの理解醸成に向けた広報活動に取り組んでいる。

○成果の普及

(2) 研究所の活動や、成果・知見を社会一般の人たちにどう伝えていくかということを、もう少し工夫するとよい。リサーチアドミニストレーターやコミュニケーターのような人を雇えないか。

(対応状況)

より分かりやすく魅力的な広報活動を目指し、ウェブサイトのアクセシビリティ向上のための研修受講、リサーチアドミニストレータやサイエンスコミュニケーターとの情報交換、新聞社での勤務経験者の（任期付）雇用等、広報スキルの向上を目的とする人材育成・確保に努めている。

○成果の普及

(3) ツイッターで有名な発信者などが一人居ると、だいぶイメージが変わる。そういうことに長けた人をうまく利用できないか。

(対応状況)

SNSを利用した広報活動として、すでに運用中のFacebook、YouTubeに続き、今年はTwitterの運用を開始した。それぞれの利用者層が異なることから、より広範な情報発信が可能になると考えている。今後は、その有効性をさらに高めるための工夫を検討したい。

○成果の普及

(4) 国内産の樹齢の高い樹木をたくさん使って再造林することが、地球温暖化のCO2の固定化にいい形でつながるということをきちんとアピールできるような役割の研究というのを進めてほしい

(対応状況)

森林の炭素吸収量や木材製品の炭素貯蔵効果の将来推定を目的とする所内のプロジェクトを進めている。また、森林の土壌炭素蓄積に関する最新の研究成果を今年6月のIPCCの排出係数に関する委員会に報告し、さらに今年10月にはネットゼロに向けた森林の役割をテーマに研究所公開講演会を開くなど成果の橋渡しとアピールに務めている。

○成果の普及

(5) 森林は単なる二酸化炭素吸収装置ではなく、公益的機能、生物多様性などの生態系サービスの価値も併せてアピールする必要がある。

(対応状況)

森林資源の持続的利用には、生物多様性保全をはじめとする森林の公益的機能や木材生産を含む多面的機能の総合評価が不可欠であり、今年度は、地域における林業収益と公益的機能の経済価値のトレードオフを解析する研究プロジェクトを開始した。対象地域の行政担当者らとの情報共有・意見交換を行いながら、実際に使ってもらえる成果を目指して研究を進めたい。